

タイトル:平成 28(2016)年度 教育セミナー(第 12 回)

日時:2016 年 9 月 18 日(日)~21 日(水)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「アッバース朝期のセクシュアリティと「男色」－ ジャーヒズの著作から」

辻 大地 (九州大学大学院人文科学府)

私は、2016 年 9 月の 18 日から 21 日に開催された第 12 回中東☆イスラーム教育セミナーに参加し、そこで多くの有意義な経験をしました。ここでは、発表者の立場と受講生の立場の両面からこのセミナーについて報告いたします。次回以降、このセミナーへの参加を検討される方の参考になれば幸いです。

普段は、歴史に特化した研究室に所属しており、アラブ史を扱う同期もいない私にとって、このセミナーは自分の見識を広げると同時にアラブ史を専門とする同年代の方の研究に触れられるチャンスだと思い参加を決めました。また、せっかくの機会なので、先生方や先輩・同輩の方たちのご意見を伺いたいと、発表も申し込んでしまいました。このように書くと、意気揚々とセミナーに臨んだようですが、実際は九州にいるときから自分のような者が議論に入っていけるのか、自分の発表に興味を持って頂けるのかなどと心許ない気持ちでいっぱいだったことをよく覚えています。また、送られてきたプログラムの一番目の発表者に自分の名前があったことも、不安に拍車をかけていました。

しかし、心配は杞憂に終わります。私にとって大勢の方を前にして発表するのは初めてのことでしたが、セミナー全体の温かい雰囲気もあって、緊張せずに話すことができました。先生方からのご指摘やコメント、受講生の方々からの質問も予想以上にたくさん頂き、特に研究史についての丁寧なご指摘や、現代的な問題関心によるご質問からは、広い視野を持つ必要性を感じると同時に、研究に合った論の立て方について今まで以上に考えるきっかけとなりました。また、懇親会の場においても、史料を手にアラビア語の転写や訳の不備を丁寧に指摘頂き、さらには今後の方針についてのアドバイスまでしてくださいました先生のお言葉は、自らの研究の方向性を定める大きな指針となりました。そして何より、拙いながらも自分が面白いと考えて発表したことに対して、参加者の皆様に何とか理解して頂けたこと、そして興味を持って頂けたことが本当に嬉しかったです。

また、先生方の講義や他の受講生の方々の発表も大変刺激的で、自分の発表以外の時間も、知的興奮の絶えない時間を過ごすことができました。先生方の講義は非常に面白く、内容はもちろんのこと他分野の人に自分の研究を伝える方法や質疑応答の受け答えに至るまで、多くの学びがありました。また、自分とほぼ同年代の方々の発表とそれを中心に行われる議論はレベルの高いもので、非常に刺激を受けました。普段自分が接する歴史学だけでなく、様々な分野の関心・方法から生み出される受講生の方々の発表を伺っていて感じたことは、多少逆説的ですが、歴史研究へのこだわりと、また同時に様々な分野の中で、あえて歴史学の立場から物事を見ることの意義を考えなければならないという危機意識でした。まだまだ私のような若輩が気を揉むことではないのかもしれませんが、今後自らが学んでいく上で、こうした意識を忘れないようにしたいと思います。

振り返ってみますと、本当に多くのことを学び、体験できた4日間でした。最後になりましたが、このよう

な素晴らしい機会を与えてくださった先生方と事務局の千葉様、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。